

# 道産イワシでMSC目指す

## 池下産業、兼松らP J 設立



北海道東沖で好漁が続くマイワシ（池下産業提供）

【北海道】フィッシュミール・魚油製造の池下産業（北海道広尾町、池下藤一郎社長）はこのほど、飼料原料として調達する道産マイワシ資源の海洋管理協議会（MSC）認証取得を目指す。「北海道マイワシ漁業改善プロジェクト（PJ）」を、大中型巻網船を保有する浜平漁業（静岡県沼津市、山田洋二社長）、総合商社の兼松、コンサルティングのUMITO Partners（東京都、村上春二社長）とともに立ち上げた。数年後をめどにMSC漁業認証、加工流通段階（COC）認証の取得を目指す。

### 持続可能な飼料生産へ

今期の道東沖でのマイワシ漁操業から浜平漁業の「浜平丸」の漁獲データなどを収集、対象漁業が周辺生態系や環境に与える影響のモニタリ

ングなどに着手する。操業情報および北部太平洋系群マイワシの資源情報を収集し、池下産業と兼松はUMITO社の認証簡易審査などで特定された課題を解決していく。

国内外で水産養殖管理協議会（ASC）認証の普及を加速させ、需要増加に対応する。世界的な

養殖魚の普及と増産で、持続可能性が担保されたMSC認証の原魚を使う飼料が評価される傾向にある。「当社製品を海外ユーザーに販売する際、道東マイワシの認証の有無を問われる場面が増えている」（池下社長）という。PJを通じて国内飼料原材料の持続可能性を高め、日本の養殖サブリチェーン全体の競争力向上を目指す。関係各社代表のコメント

トは次の通り。

浜平漁業・山田社長  
漁業を持続的に継続していくためには、マイワシの資源状態を豊かな状態で管理すること。加工・製造する池下産業や飼料を扱う兼松との協力的な取り組みには実現できない。漁業の持続性と繁栄に必要な不可欠な取り組みに参加できることをうれしく思う。

池下産業・池下社長  
5年前から道内で水揚げされるマイワシの付加価値向上に取り組んできた。養殖飼料や水産加工品などマイワシの可能性を漁業者の方々とともに高めていきたい。

兼松・岩瀬裕紀穀物飼料部長  
PJは国内外の持続的な養殖サプライチェーンの構築と付加価値向上に寄与する。パートナー企業や賛同いただける方々との輪を広げたい。

UMITO社・村上社長  
国内外のマーケット

を視野に入れ、未来志向と「SDGs」（国連の持続可能な開発目標）の実現につながる取り組み。日本の水産業の成長に必要な不可欠な活動であり、賛同する漁業者や企業が、増えることで社会全体の持続可能性への認知が広がり、行動の醸成が高まることを期待したい。



池下藤一郎社長

